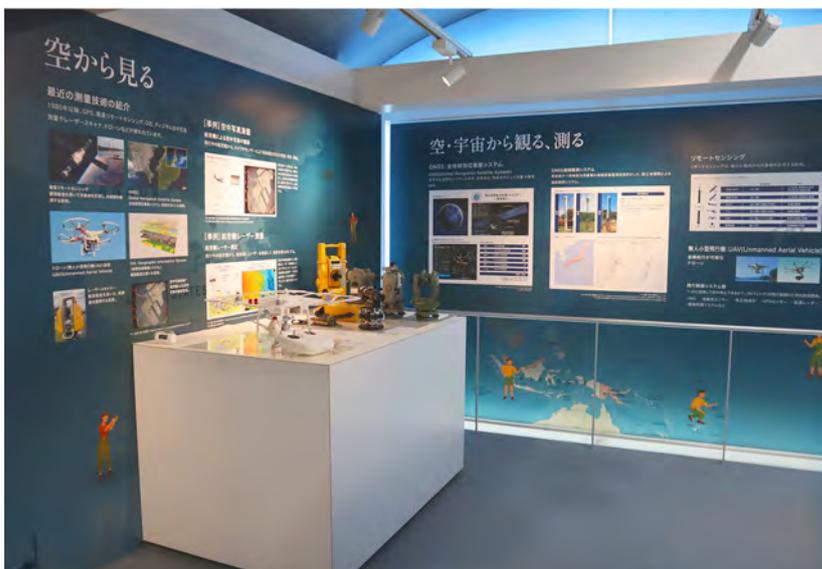


測量は「国土の身体測定」

2023年8月4日～2024年7月1日





距離を測る 一歩、星を観る

伊能忠敬、どんな人？ 伊能忠敬(いのうただたか) 1745年—1818年(73歳)

日本で最初に地図を作成した人と言え、伊能忠敬です。

江戸時代、200年以上前に現在の技術を持って作られた地図は、日本列島の全長を伊能忠敬と妻子たちが計測し、河津角屋や葺り醤油の醸造を営み、金銭難などの辛い思いを経験しながら、伊能忠敬に17歳で婿養子に行く、針を高く、星を見てから測量に自己資金を現在の価値で数千万円投入し、日本全国を歩いて測量した、17年間で歩いた距離はおよそ4万km。

なぜ、伊能忠敬は測量をしたのか？

1788年文政の幕府の命で、江戸参府に参内し、正しい星を伝えるには、「正確な長さの尺を備え、金銭難などの辛い思いを経験しながら、伊能忠敬に17歳で婿養子に行く、針を高く、星を見てから測量に自己資金を現在の価値で数千万円投入し、日本全国を歩いて測量した、17年間で歩いた距離はおよそ4万km。

天文学

伊能忠敬は江戸にも数件店を出すようになった。星を測るための天文学に興味を持ち、星の位置や方位角などを取り寄せて天体観測の技術を独学で習得し、この知識が地図を作るときに役に立ちました。

伊能忠敬の測量

一筆線法+交合法+天体観測を、繰り返す—

1) 筆線法とは
測量の距離と星の位置を測りながら進む方法。「天文(星の位置)と地形(星の位置)のずれを補正して、正確な距離を測る」という方法で、測量の精度を上げていく。

2) 交合法とは
測量の距離を測るために、遠くまで見通せる山の上などに、目標物の位置を測って距離を測ります。

3) 天体観測
夜に星の位置と星からの距離を測り、星の位置が正しいかどうかを確認します。伊能忠敬はこの3つの方法を繰り返し行って、精度の高い日本地図を完成させました。

伊能忠敬 年表

- 1745年 誕生
- 1762年 17歳で婿養子になる
- 1788年 測量の技術を習得
- 1790年 測量の技術を習得
- 1795年 測量の技術を習得
- 1800年 測量の技術を習得
- 1805年 測量の技術を習得
- 1810年 測量の技術を習得
- 1815年 測量の技術を習得
- 1818年 没

1800年 測量の技術を習得

1805年 測量の技術を習得

1810年 測量の技術を習得

1815年 測量の技術を習得

1818年 没



ワークショップ

